

環境の文化が根付く三重大学の目指すもの

三重大学は、「世界に誇れる環境先進大学・環境の文化の根付く大学」を目指して、学生と教職員が連携協力をし、さまざまな事業・活動が実施されてきています。企業体としての三重大学は、第3期中期目標中期計画の6年間に於いて、エネルギー使用量を2015年度比で6%削減するという意欲的な達成目標を設定しました。そして、エネルギー総合管理システムの導入、再生可能エネルギー（風力と太陽光）とガスコージェネレーションによる発電、省エネ重点施設（デシカント空調・低損失LED★照明）の整備等のハード面での省エネ対策を実施してきています。さらに、学生、教職員が協力し、環境ISO学生委員会を中心に、大学キャンパス内における省エネ・節電行動に留まらず、地域・社会への環境マインドの水平展開にも取り組んでいます。また、高等教育機関である三重大学としては、環境マインドを持った逞しい人材の育成、地球環境の保全・改善に資する先端研究の実施等、環境分野の教育・研究においても大切な役割を担っていると認識しています。

環境文化の熟成

三重大学は、企業体としての省エネ活動を着実に実施していくと共に、平成27年9月に国連で採択をされた「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている17のSDGs（持続可能な開発目標）を達成するための行動へと、その活動範囲を拡大しています。そして、永続的な社会・地球環境を構築するための地域拠点となるため、学内・地域における環境の文化の熟成を図っています。三重大学での学びを通して、未来を担う若者の心に、環境マインドが根付くことを期待していますし、さらには、環境マインドを身につけた学生には、社会においても三重大学の環境文化をそれぞれの立場で広く発信し、SDGs達成のリーダーとして活躍して頂くことを願っています。

未来のグリーンキャンパスづくり

三重大学は、自然豊かなキャンパスづくりを進めていく基本となる「キャンパスマスタープラン2016」を作成し公表を致しました。このプランは、既存のキャンパス資産を最大限活かしつつ、それを現実的・持続的・創造的に拡大再生産する「創造的再生」の戦略を用いています。三重大学キャンパスでは、木々の緑に囲まれ、伊勢湾の波の音や小鳥のさえずりが聞こえ、澄み渡った青空を仰ぎ見る環境が維持・整備され、この素晴らしい環境の中で、独創的で高度な教育・研究活動が活発に展開されることを目指しています。三重大学では、環境に優しい行動が日常的に行われ、キャンパス内に足を一歩踏み入れた瞬間から、環境の文化の匂いを感じていただけるようなキャンパスづくりを進めていきたいと思えます。



平成30年9月
三重大学長 最高環境責任者

駒田美弘

★のマークの解説はP72.P73の用語解説をご覧ください